

9月23日は「網膜の日」

～光を感じる目の膜「網膜」の病気への理解を深める日～

毎年9月23日は「網膜の日」です。

「網膜の日」は、網膜色素変性症をはじめ、緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、網膜剥離など、さまざまな網膜疾患への理解を深め、病気とともに生きる方々を支える社会の実現を目的として、2017年に日本記念日協会に認定されました。

○なぜ9月23日が「網膜の日」なの？

9月23日は秋分の日で、この日を境に夜が長くなり、暗い時間が増えていきます。

網膜の病気がある方にとって、「明るさ」は日常生活を送るうえでとても大切です。暗くなると見えにくくなり、外出や歩行、仕事などに支障を感じる場合があります。そのため、昼夜の長さが入れ替わる節目である9月23日が「網膜の日」となりました。

○網膜の病気で見え方はどう変わる？

網膜は、目に入った光を感じ取り、その情報を脳へ伝える大切な役割を担っています。

網膜に障害が生じると、暗い場所で見えにくい、視野が狭くなる、物がゆがんで見える、視界の一部が欠けるなど、人によってさまざまな症状が現れます。

これらの障害は外見からは分かりにくいので、周囲の理解が得られず、誤解を受けたり、不安や孤立を感じたりすることもあります。

○正しい理解が、安心して暮らせる社会につながります

白杖は、全く見えない方だけが使うものではありません。見え方は一人ひとり異なり、文字は読めても安全に歩くために白杖を必要とする方もいます。

「網膜の日」をきっかけに、網膜疾患や見え方の多様性について理解を深め、病気を抱える方々が安心して暮らせる社会を、私たち一人ひとりがともに考えていきましょう。